

鹿島正裕教授 略歴・業績目録

著者	金沢大学人間社会研究域法学系
著者別名	The Faculty of Law, Institution of Human and Social Sciences, University of Kanazawa
雑誌名	金沢法学 = Kanazawa law review
巻	55
号	2
ページ	50-61
発行年	2013-03-07
URL	http://hdl.handle.net/2297/34417

鹿島正裕教授 略歴・業績目録

学 歴

- 昭和二三年（一九四八）三月二六日 新潟県新潟市に生まれる
- 昭和四一年（一九六六）三月 新潟県立新潟高等学校卒業
- 昭和四一年（一九六六）四月 東京大学文科一類入学
- 昭和四三年（一九六八）四月 東京大学教養学部教養学科国際関係論分科進学
- 昭和四三年（一九六八）九月 アメリカ、ワシントン大学（シアトル）に留学（サンケイスカ
ラシップ奨学生。四四年六月まで）
- 昭和四六年（一九七一）三月 東京大学教養学部教養学科卒業（教養学士）
- 昭和四六年（一九七一）四月 東京大学大学院社会学研究科国際関係論専門課程修士課程入学
- 昭和四八年（一九七三）三月 同上修了（国際関係学修士）
- 昭和四八年（一九七三）四月 東京大学大学院社会学研究科国際関係論専門課程博士課程入学
- 昭和四九年（一九七四）四月 ハンガリー科学アカデミー歴史学研究所に留学（ハンガリー政
府給費生。五〇年九月まで）
- 昭和五四年（一九七九）三月 東京大学大学院社会学研究科国際関係論専門課程博士課程単位
取得満期退学
- 平成一二年（二〇〇〇）十一月 東京大学大学院総合文化研究科より学術博士号取得

職 歴

昭和五二年（一九七七）四月 聖心女子大学非常勤講師（五三年三月まで）

昭和五三年（一九七八）四月 神田外語学院非常勤講師（英語担当）

昭和五四年（一九七九）四月 神田外語学院専任講師に採用（英語担当）

昭和五五年（一九八〇）二月 エジプト、カイロ大学文学部客員助教授に採用（国際交流基金

派遣専門家。日本語科で日本文化論及び日本語担当、五七年六月まで）

昭和五七年（一九八二）一〇月 金沢大学法学部講師に採用（法学科及び法学研究科で国際関係

論担当）

昭和五九年（一九八四）四月 金沢大学法学部助教授に昇任

昭和六三年（一九八八）五月 金沢大学法学部教授に昇任

昭和六三年（一九八八）一〇月 フランス、アラブ・ムスリム世界研究所で研修（フランス政府

給費生。平成元年七月まで）

平成四年（一九九二）一一月 大学院設置審査判定 金沢大学大学院社会環境科学研究科国際

社会環境学専攻（博士課程）教授（外交政策論担当）㊦

平成六年（一九九四）四月 アメリカ、ジョージ・ワシントン大学で研修（文部省在外研究

員。同年一二月まで）

平成八年（一九九六）四月 金沢大学法学部公共システム学科長に併任（一二年三月まで）

平成一〇年（一九九八）四月 金沢大学評議員に併任（一六年三月まで）

平成二二年(二〇〇〇) 四月

大学院設置審査判定 金沢大学大学院法学研究科公共システム専攻(修士課程) 教授(国際関係論担当) ㊦

平成二六年(二〇〇四) 四月

金沢大学大学院社会環境科学研究科国際社会環境学専攻長(一七年四月より副研究科長兼務、一八年三月まで)

平成一八年(二〇〇六) 四月

金沢大学付属図書館長兼務(二〇年三月まで)

平成一八年(二〇〇六) 四月

金沢大学教育研究評議会委員に併任(二四年三月まで)

平成一九年(二〇〇七) 二月

アメリカ、ワシントン大学客員研究員(文部科学省補助金による。三月まで)

平成二〇年(二〇〇八) 四月

金沢大学人間社会学域国際学類教授、学類長に就任(二四年三月まで)

平成二四年(二〇一二) 四月

金沢大学大学院人間社会環境研究科国際学専攻(博士前期課程)教授に併任(国際関係論、International Relations 担当)

教育に関する特記事項 法学研究科修士課程及び人間社会環境研究科博士前期課程において、一八名を主指導教員として修了させ、うち一三名が留学生、うち八名が国費留学生であった。また社会環境科学研究科博士課程及び人間社会環境研究科博士後期課程において、七名を主指導教員として修了させ、うち六名が国費留学生であった。国費留学生は一名を除き英語で教育・指導した。人間社会学域国際学類でも、西アジア論を英語で講義した。

所属学会 日本国際政治学会、日本政治学会、日本比較政治学会、日本中東学会、北東アジア学会、

日本国際文化学会、International Studies Association

社会的活動 金沢大学に勤めながら、富山大学、金沢学院大学、富山国際大学、北陸大学、放送大学
石川学習センターで非常勤講師を務めた。また、アジア経済研究所、日本国際問題研究所、国立
民族学博物館で研究会委員を務めた。石川県では国連大学グローバルセミナー金沢セッションの
プログラム委員会委員長、石川県図書館協議会委員、金沢市図書館協議会委員を務めた。また、
環日本海国際学術交流協会、石川ハンガリー友好協会、石川EU協会で理事を務めている。学内
での公開講座を三回分担当したのに加えて、早稲田大学、法政大学、チュニジア、ノルウェー、ボ
スニア・ヘルツェゴビナ、北陸三県で講演を行った。

著書・論文等一覧

中東研究

(1) 著書

- ・『カイロ大学より』三修社 一九八五 単著
- ・『中東戦争と米国 米国・エジプト関係史の文脈』御茶の水書房 二〇〇三 単著
- ・Enduring States: Considering States in Light of Nations and Ethnic Groups 京都大学統合地域研究セン
ター 二〇〇七 共著 Kashima Masahiro, Yoshizawa Seichiro, Hamada Yasushi 担当 chapter 1 “The
Arab States and Arab Nationalism: From Qaumiyya to Wataniyaa”
- ・『脱植民地化とイギリス帝国』ミネルヴァ書房 二〇〇九 共著 北川勝彦、菅英輝、鹿島正

裕、松島泰勝、峯陽一、都丸潤子、脇村孝平、井野瀬久美恵、ほか四名 担当・第四章「アメリカから見た『イギリスとスエズ戦争』」

・『中東政治入門』第三書館 二〇一〇 単著

(2) 論文

- ・「エジプト『アラブ社会主義』体制の変容」『金沢法学』一九八四 二六卷二号
- ・「近代化と従属的發展——エジプト一八四一〜一八二二」『金沢法学』一九八六 二八卷二号
- ・「植民地支配の政治経済学——イギリスのエジプト統治、一八八二〜一九一四年」『金沢法学』一九八七 二九卷一・二号
- ・「植民地支配の比較研究に向けて——フランスのチュニジア支配とイギリスのエジプト支配、一八八一〜一九一四年」『金沢法学』一九八七 三〇卷一号
- ・「エジプト国家論の展開」『年報政治学』一九八八 一九八六年度号
- ・“La colonisation française en Tunisie et la colonisation anglaise en Egypte jusqu'à la Première Guerre mondiale : un essai de comparaison” 『金沢法学』一九九〇 三二卷一・二号
- ・「スエズ戦争（一九五六）における米国・エジプト関係」『金沢法学』一九九五 三七卷一号
- ・「第二次・第三次中東戦争間の米国・エジプト関係」『金沢法学』一九九六 三八卷一・二号
- ・「第三次中東戦争に至る政治過程と米国の『関与』」『国際政治』一九九六 一一三号
- ・「第三次中東戦争から消耗戦争にかけての米国・エジプト関係」『金沢法学』一九九六 三九卷一号

- ・「第四次中東戦争（一九七三年）と米国・エジプト関係」『金沢法学』一九九八 四〇巻二号
- ・「イスラエル独立戦争と米国」『金沢法学』一九九八 四一卷一号
- ・「キャンプ・デービッド協定とエジプト・イスラエル講和」『金沢法学』一九九九 四二巻一号
- ・「エジプト革命と米国」『金沢法学』二〇〇〇 四二巻二号
- ・「中東戦争を巡る米国・エジプトの政策とその決定過程」『金沢法学』二〇〇一 四三巻三号
- ・「イラク『民主化』の可能性とアラブ世界」『アソシエ』二〇〇五 一五号
- ・「中東における地域政治の構造と展開」『国際政治』二〇〇五 一四一号
- ・「アラブ民族主義の盛衰」『アソシエ』二〇〇五 一六号
- ・「中東諸国の政治体制——類型論的考察に向けて」『金沢法学』二〇一一 五三巻二号
- ・「北アフリカのアラブ諸国はいずこへ？ 国内変革とその外交への影響」『金沢法学』二〇一三 五五巻二号
- (3) その他（新聞・雑誌の短文や事典項目等は省略）
 - ・「日本と中東の相互理解をどう進めるか」『中東研究』一九八五 三〇三号
 - ・「伊能武次著『エジプトの現代政治』『国際政治』一九九四 一〇六号
 - ・「第一次～第四次中東戦争」日本国際問題研究所『中東和平の総合的研究』所収 一九九八
 - ・『アラブ・イスラエル和平交渉』御茶の水書房 二〇〇四 翻訳・解説執筆 原著者L. Z. アイゼンバーク、N. キャプラン
- ・“A Study of the History of the U.S.-Egyptian Relations in the Context of the Middle Eastern Wars”『日本中

東欧研究

(1) 著書

- ・『ハンガリー現代史』 亜紀書房 一九七九 単著
- ・『東欧現代史』 有斐閣 一九八七 共著 木戸蒔、伊東孝之、鹿島正裕、鳥山成人、小原雅俊、ほか五名 担当・第七章 「両大戦間の独裁政権」
- ・『社会主義と現代世界2 社会主義の現実I』 山川出版社 一九八九 共著 菊地昌典、鹿島正裕、平泉公雄、木村哲三郎、小倉充夫、ほか五名 担当・第二章 「ハンガリー動乱再考」

(2) 論文

- ・「ハンガリーの改革の意味するもの——社会主義の歴史的理解のために」 『アジア経済』 一九八四 一五卷五号
- ・「ハンガリー産業革命の政治的条件——社会発展の比較研究によせて」 『アジア経済』 一九八七 一八卷四号
- ・「歴史的ハンガリーの分割とハンガリー民族の直面した諸問題」 『ウラリカ』 一九八七 四号
- ・「一九一九年のハンガリー社会主義——評議会国家とその国内政策」 『アジア経済』 一九八七 一八卷八号
- ・「経済恐慌下のハンガリー——国家・政策・ファシズム」 『東欧史研究』 一九八八 一号

- ・「ソ連共産党第二〇回大会とハンガリー」『歴史学研究』一九九〇 四七七号
- ・「ハンガリーにおける多元的民主主義の制度化」『ロシア研究』一九九三 一六号
- ・「社会主義から民主主義・市場経済への移行——ハンガリーはなぜ成功したか」『金沢法学』二〇〇二 四五卷一号

(3) その他(新聞・雑誌の短文や事典項目等は省略)

- ・『ハンガリー史 2』恒文社 一九八〇 共訳 原編著者パムレーニ・エルヴィン 鹿島正裕、田代文雄 担当・五〇三—二、三八四—四〇四ページ 日本翻訳出版文化賞受賞
- ・「東ヨーロッパ民主化運動の歴史的背景」『じつきょう社会科資料』一九九〇 二二六号
- ・『ハンガリー史 2 (増補版)』恒文社 一九九五 共訳 原編著者パムレーニ・エルヴィン 鹿島正裕、田代文雄 担当・五〇三—二、三八四—四一五ページ(年表の追加等)

国際関係一般

(1) 著書

- ・『日本海——対岸をな隔てるものは何か』桂書房 一九九三 編著 鹿島正裕、多賀秀敏、藤井一行、鶴園裕、内山雅生、布施勉、ほか八名 担当・「北方領土問題」
- ・『講座・世界史9 解放の夢——大戦後の世界』東京大学出版会 一九九六 共著 歴史学研究会編 油井大三郎、柴宜弘、長崎暢子、中村平治、小田英郎、鹿島正裕、ほか七名 担当・Ⅲ—2 「スエズ危機とハンガリー動乱」

- ・『冷戦終結後の世界と日本』 風行社 一九九七 編著 鹿島正裕、福田茂夫、凌星光、倉沢愛子、ほか三名 担当・序章「冷戦終結後の世界の諸変化」及び第七章「中東」
 - ・『中央アジア——市場化の現段階と課題』 アジア経済研究所 一九九八 共著 清水学、松島吉洋、宮崎一郎、川上晃嗣、錦見浩司、岡奈津子、木村英亮、鹿島正裕、伊能武次 担当・第八章「社会主義体制からの脱却——エジプトとハンガリーの比較試論」
 - ・『二一世紀の世界と日本』 風行社 一九九九 編著 鹿島正裕、福田茂夫、凌星光、倉沢愛子、ほか三名 担当・序章「冷戦終結後の世界の諸変化」及び第七章「中東」
 - ・『グローバル・マインドが地球をかえる』 北國新聞社 二〇〇〇 共著 川勝平太、大内浩、鹿島正裕、ほか三名 担当・第二章「国際政治」
 - ・『二一世紀の世界と日本（改訂版）』 風行社 二〇〇四 編著 鹿島正裕、福田茂夫、凌星光、倉沢愛子、ほか三名 担当・序章「冷戦終結後の世界の諸変化」及び第七章「中東」
 - ・『国際学への扉——異文化との共生に向けて』 風行社 二〇〇八 編著 鹿島正裕、村上清敏、鶴園裕、倉田徹、ほか二名 担当・「序」及び第一章「平和と開発——国際社会の最重要課題」
 - ・『国際学への扉——異文化との共生に向けて（改訂版）』 風行社 二〇一一 共編著 鹿島正裕、倉田徹、村上清敏、鶴園裕、ほか一名 担当・「序文」及び第一章「国際関係論」及び第四章「平和と開発——国際社会の最重要課題」
- (2) 論 文
- ・「トリムバーガー『上からの革命』論をめぐって」『金沢法学』一九八三 二六巻一号
 - ・「近代化論と従属理論——発展途上国研究の理論的枠組を求めて」『金沢法学』一九八五 二七

- ・ 「近代国際関係史の巨視的理論と冷戦の終焉」 『金沢法学』 一九九一 三三卷一・二号
- ・ 「環日本海諸国交流の現状と課題」 『金沢大学日本海域研究所報告』 一九九一 一三三号
- ・ 「アラブ社会主義と東欧社会主義——一九六〇年代後半のエジプトとハンガリーの比較」 清水学編 『エジプトの経済改革——統制主義と自由化・民営化』 所収 一九九七 アジア経済研究所
- ・ “New Regionalism in Comparison: The Emerging Regions of East Asia and the Arab Middle East” 『金沢法学』 二〇〇六 四八卷二号 共著 Kashima Masahiro, Benny Teh Cheng Guan
- ・ “Democratization Under Occupation: The Case of Iraq Compared with Japan” 『金沢法学』 二〇〇六 四九卷一号
- ・ 「ガバナンスと経済発展」 『金沢法学』 二〇〇八 五〇卷二号
- ・ “International Assistance to Post-Conflict Peacebuilding: The Cases of Cambodia and Afghanistan” 『人間社会環境研究』 二〇一一 一三三号 共著 Kashima Masahiro, M. Qasim Wafayezada
- ・ (3) その他(新聞・雑誌の短文や事典項目等は省略)
- ・ 『非同盟の論理——第三世界の戦後史』 TBSブリタニカ 一九七九 翻訳・訳者あとがき 原著者レオ・マテス
- ・ 「中国・エジプト・ハンガリー」 『公明』 一九八六 二一九七号
- ・ 「二一世紀を拓く環日本海時代 緊張の海1〜10」 『北陸中日新聞』 一九九〇年五月
- ・ 「シンポジウム 脱・権威主義の時代へ？」 『世界』 一九九〇 五四三号 共著 恒川恵一、鹿

島正裕、若林正文

- ・「北陸地方の国際化」『放送(テレビ)利用の金沢大学公開講座 北陸の社会——伝統と再生』所収 金沢大学教育開放センター 一九九〇 北陸放送のテレビ放送一九九一年一月七日
 - ・『開発と自由——発展途上国援助の政治学』 風行社 一九九一 翻訳 原著者エドガー・オーウェンズ
 - ・「北風抄」『北國新聞』一九九二年七月〜九三年五月 全一〇回
 - ・「石川県」 国際交流基金日米センター調査報告『日本の地域レベルの国際化と米国との交流活動』所収 一九九四
 - ・「冷戦終結後の世界の諸変化」『東海・北陸地区大学放送公開講座 冷戦終結後の世界と日本』所収 金沢大学教育開放センター 一九九六 北陸放送のラジオ放送一〇月一三日(富山、福井でも同日、愛知、岐阜、三重では一二日に放送)
 - ・「日本と隣接諸国との領土問題」 金沢大学社会環境科学研究科特定研究報告『国際情報化における中央―地方―関係の総合的研究』所収 一九九七
 - ・「ジョン・J・ステファン著『ロシア極東 一つの歴史』(一九九四年)にみる諸民族交流史」 金沢大学日本海域研究所重点研究報告『グローバル化の異文化理解の可能性と条件』所収 二〇〇一
 - ・「巻頭座談会 イラク戦争後の世界秩序」『アソシエ』二〇〇五 一五号 共著 土佐弘之、鹿島正裕、清水耕介、的場昭弘、星野智
- ・ “Rapprochement and Interdependence between Former Enemies: The Case of Japan and the United States”

This Century's Review 11006 03・06 電子ジャーナル

- ・金沢大学『国際人養成のための新教育プログラム報告書』文部科学省「大学教育の国際化推進プログラム」採択事業 二〇〇七 編著 鹿島正裕、楠根重和、小原文衛、宋安鍾、ほか三名 担当・「事業の概要」及び「ワシントン大学（シアトル）における国際学教育」
- ・「北東アジアの形成」環日本海国際学術交流協会『環日本海地域の協力・共存・持続的発展』所収 橋本確文堂 二〇一一
- ・『事実は破壊的である（仮題）』風行社 二〇一三（予定） 共訳 原著者T・ガートン・アッシュ 添谷育志監訳 担当・第三章「イスラム、テロ、そして自由」及び第五章『『西洋』の彼方』